

好評を博した第15回フォーラム「医療の改善活動」 全国大会 in 大阪

大阪市立大学医学部長兼大学院医学研究科長 荒川 哲男



このフォーラムは、医療の改善活動の報告会で、患者さんの満足度向上を目指す学会のようなものです。一般社団法人医療のTQM推進協議会（理事長：上原鳴夫東北大学名誉教授）が母体です。会員施設は右肩上がりで、現在、約160施設。しかし、大学病院では大阪市立大学医学部のみ。なぜオンリーワンなのかわかりません。

平成25年11月9日（土）～10日（日）の2日間、阿倍野（天王寺）という大阪市の真ただ中の大阪市立大学医学部学舎で、5会場をフル回転で行いました。この第15回フォーラム（大会長：石河 修本学附属病院長、

すまいるず）（代表：私）の活動に、昨年からは医学生が参加しました。ピンポイントの支援を各地に拡げようというポリシーで、大槌町への支援を続けています。附属病院のレストラン「パティオ」に復興メニューをつくり、年間40万円程度を義援金に回しています。このフォーラムでも義援箱を設け、3万円余りが集まり、大槌町の未来を担う中高校生の

実行委員長：私）のテーマを「医療の質をArtする一技と笑顔とチームワーク」とし、大阪の味をふんだんに盛り込みました。特別講演には、「まいど」号の青木豊彦氏（中小企業社長）、特別講話として人間国宝の竹本住大夫師匠をお迎えしました。大阪の技（ものづくり）とアートを代表する方です。

139演題が集まり、908名の参加者を得て、過去最高を記録しました。本学の学生がボランティアとして参加し、交流会の演奏や手づくりの「たこ焼き」などを手伝ってくれました。

本学医学部では、東日本大震災直後に教職員でつくった復興支援ボランティア「なにわ

奨学金としています。

盛会裡に終わった後、打ち上げをしました。看護師、薬剤師、技師、医師、事務方など約50名がビアハウスに集結し、異業種の結束の喜びと成功の美酒に酔いました。病院学でのイベントが、結束力を高め、本病院のスローガンである「Smile, Service, Science」の牽引力になることを確信しました。